

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

大阪の障害児教育をよくする会

10月29日、大阪の障害児教育をよくする会の対府交渉が大阪市内で実施され、19人が参加しました。障害児教育の条件整備を求める切実な要求を訴えました。

「過大・過密」解消のため、

各地域での知的障害支援学校建設を

教育条件整備を求めて対府交渉

「過大・過密」の抜本的解消のために 支援学校建設を!



署名を手交するよくする会会長の岩田さん

八尾支援の保護者が、特別教室の転用や全ての学部で圧縮学級により普通教室を確保している深刻な実態などを示し、東大阪市内への支援学校整備の必要性を訴えました。岸和田・泉南よくする会の保護者は、今年度在籍児童生徒数406人の80%にあたる340人が岸和田・貝塚地域から通う状況を示し、同地域

への新校整備を検討するよう強く求めました。北摂地域の保護者は、北摂地域の3校で児童生徒数300人を超えており、今後の児童生徒数増の推計を踏まえ、北摂地域への学校建設を訴えるとともに、各地域別の保護者の声を聞く懇談会の開催を求めました。府教委は、「府内どの地域も決してゆとりのある状況ではない」2018年3月に策定した『府立支援学校における知的障がい児童生徒の教育環境の充実に向けた基本方針』に基づくとりくみをスピード感を持って順次すすめていくなどと述べ、新校開校の時期や地域などの見直しについても今は示せないとの回答にとどまりました。

通学区域割は、福祉圏域・生活圏域を守って

北河内地域の保護者は、2020年4月から枚方市東部地域の生徒が生活圏・福祉圏域の異なる交野支援四條畷校に通わされる「新たな通学区域割の変更」(以下、「通学区域割の変更」)の問題点を示し、地域に根ざした支援学校の建設を訴えました。八尾支援の保護者は、突然発表された「通学区域割の変更」への不安を語り、小中高一貫教育を選べる通学区域割の弾力的な運用を行ってほしいと要望しました。岸和田・泉南よくする会の保護者は、「通学区域割の変更」によって、居住の地域で小中学校の一貫教育を受けられる子どもと受けられない子どもが生じる不公平さについて訴え、必要な場所への支援学校建設と地元の学校に通える校区の再編を求めました。

府教委は、「通学区域割の変更」について、「児童生徒増、学校の狭隘化が進む中で実施せざるをえない状況であった」と述べました。通学区域割の弾力的な運用については、「個別の事情がある場合は、学校の方で相談していたら何って個別に対応は検討する」と回答しました。

安全・安心な直営のスクールバス運行を

北摂地域の保護者は、民間委託バスで事故が多発している実態を示し、子どもたちや保護者の不安な思いを語りました。その上で、子どもたちの安全・安心を守るスクールバス運行や事故等の際に情報共有を含めた保護者への適切な対応を求めました。

府教委は、「日頃から各学校において、乗務員やバス会社との情報共有をより密にするとともに、必要な連絡事項は、各学校の校長や支援教育課からバス会社を通じて乗務員に伝達し、連携を図りながら、安全・安心な通学バス運行に努めている」と基本回答しました。

発達障害等の子どもたちへの教育保障

支援学級に在籍する発達障害等の子どもは、保護者からは、支援学級に在籍児童生徒も含め40人以上の通常学級で学ぶ児童生徒の負担や教員不足等の深刻な実態について訴え、35人・40人の定数を超える通常学級をなくすよう求めました。

府教委は、「支援学級と通常学級における交流及び共同学習が、適切に実施されるよう加配措置を含めた人的支援等について国に強く要望するとともに、引き続き障がい種別による支援学級の設置を促進し、障がいのある児童生徒へのきめ細かな指導・支援の充実に努めていく」と回答しました。

交渉の最後にあいさつした「よくする会」の岩田会長は、「支援が必要な子どもたちに対してより充実した教育環境を整えていただくとともに、保護者の声もぜひ一番に聞いていただくよう今後ともよろしくお願いします」としめくり、交渉を終えました。



先月24日、ローマ・フランシスコ教皇が人類史上2番目に原子爆弾が投下された長崎市を訪れ、爆心地公園で「核兵器についてのメッセージ」を読み上げ、禁止条約を含めた核兵器廃絶への決意を表明した。ローマ教皇が日本を訪れるのは、ヨハネ・パウロ2世の来日以来38年ぶり2度目の訪問となる。

今年8月、原水爆禁止世界大会に参加し、原爆資料館や爆心地公園を自身初めて訪れた。実際に見た長崎の町を思い浮かべながら、教皇の言葉に耳を傾けることで、「核兵器保有や軍拡競争が続く現状にこれらは途方もないテロ行為」「核兵器から解放された平和な世界を、数えきれないほどの人が熱望している。それを現実にするには、すべての人の参加が必要」などのメッセージにより共感を覚えた。中でも、「核兵器は、世界や国家の安全を脅かす脅威から私たちを守ってくれるものではない。核兵器のない世界は実現可能で、必要とされている」と核保有国の指導者に呼びかけたメッセージはとりわけ印象深い。

核兵器禁止条約は国連加盟国193カ国中122カ国という圧倒的多数で採択され、条約の発効に必要な批准50カ国まであと17に迫っている。こうした世界の流れに反して、ローマ教皇の主張を全面否定し、「米国の核抑止力」の維持・強化を公言した菅官房長官の姿勢は、今の日本政府をまさに象徴している。

「核兵器への脅威に対しては、一致団結して応じなければなりません」という教皇の言葉に学び、長崎・広島を持つ世界で唯一の戦争被爆国日本として、平和への想いを一つにすることが強く求められている。

平和といのちと人権が輝く未来のために

輝け憲法！いかそう9条！

おおさか総がかり集會に1万2千人

日本国憲法の公布73年を迎えた11月3日、「輝け憲法！いかそう9条！11.3 おおさか総がかり集會」が扇町公園で開催されました。市民団体や労働組合、市民など1万2千人、大障教からは、14分会20人が参加しました。

輝け憲法・平和憲法を守り抜こう

戦争をさせない1000人委員会・大阪の米田彰男さんが主催者を代表してあいさつしました。

ゲストスピーチした「立憲デモクラシーの会」呼びかけ人の高山佳奈子さん（京都大学大学院教授）は、夏の参議院選挙について、「改憲勢力3分の2を阻止したことは大きな成果」だ



集會には1万2千人が参加

とし、「投票に行っていない人が投票所に足を運べば、立憲勢力はもつと伸びる。今の政治は問題だと思ってる人や若い人にも投票を働きかけて選挙での進展に結びつけよう」と訴えました。また、韓国市民社会団体連帯会議事務局長のイ・スンフンさんは、徴用工問題に関して、「安倍政権は歴史を再び過去に引き戻そうとしている。日韓の市民の共同の力で安倍政権とたたかい、平和憲法を守り抜こう」と呼びかけました。

ステージでは、「MIC SUN LIFE」のラップ、おーまきちまきさんのアコーディオン弾き語り、中川五郎さんのギター弾き語り、大阪朝鮮高級学校舞踏部の舞踊などが披露されました。また、各分野からのスピーチでは、原爆被害者

の会、原発賠償訴訟原告、森友学園問題を考える会、カジノ問題を考える大阪ネットワークから訴えがあり、集會スローガンでもある「輝け憲法・いかそう9条！」を確認しました。

市民と野党の共同で改憲ストップ！

集會には3野党の代表があいさつし、立憲民主党の森山浩行衆院議員からはメッセージが寄せられました。

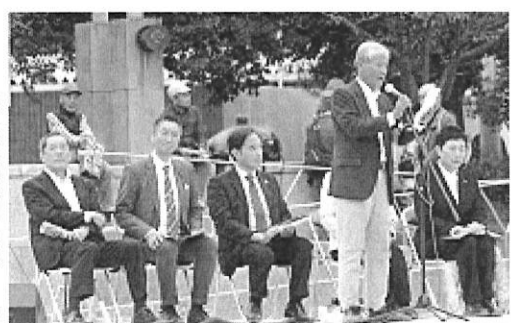
日本共産党の清水忠史衆院議員は、みなさんと新しい政治を切り開くには、参院選で大きな成果をあげた「市民と野党の共同」が必要と訴え、カジノ反対、「都」構

想粉碎、大阪のド根性で維新政治も倒しましょうと力強く語りました。

立憲民主党の辻元清美衆院議員は、野党が力を合わせて、おかしな安倍政権の改憲に、みなさんといっしょに引き続き歯止めをかけていこうと呼びかけました。

社民党の服部良一元衆院

議員は、「この一年はまさに勝負の年。改憲阻止に向けて断固たたかいます」と訴えました。



3野党代表のあいさつ

11. 3総がかり集會で署名行動

11月3日、「改憲ストップ！安倍暴走政治は許さない！」の思いでおおさか総がかり集會に参加する人々に「府立支援学校の新校整備を求める請願」署名の協力を呼びかけました。



支援学校の現状を訴え160筆集める

署名行動には、分会と大障教執行部から13人が参加しました。

公園内のいたるところで、さまざまな団体が署名宣伝やビラ配布をしていました。それに混じって、人権侵害



ともいえる大阪の支援学校の現状を伝えながら署名への協力を呼びかけると、集會前の慌ただしい時間にもかかわらず、160筆の署名が集まりました。

12月3日時点、署名集約は、17676筆です。支援学校の増設を求めて、引き続きひとりでも多くの署名を集められるよう、全教職員のご協力をお願いします。

